

## 令和 1 年度 学術振興基金助成による成果報告書

令和 2 年 1 月 30 日

学 長 殿

所属部局・職名 福島大学大学院

申 請 者 名 設楽晴海

助成事業の区分 (該当するものに○印)	研究協力に関する事業 (学術出版・叢書・学会等運営・学 <del>会</del> 参加) 学術振興に関する事業 ( <del>学生</del> ・事務職員・その他の特別事業)
事 業 名	経営情報学会 2019 年春季全国研究発表大会の参加
事業実施期間	令和 1 年 5 月 ~ 令和 1 年 6 月
成 果 の 概 要	<p>私は、学会参加を通じて、伝えることの難しさや最新の研究の動向、準備することの大切さを学んだ。</p> <p>学会参加に向け、論文の作成から口頭発表のための資料作成では、伝えることの難しさを学んだ。日本は察する文化が発展しており、日本語はさまざまな言葉を省略することが多い。しかし論文のような文章を書くときは、省略をしては伝わらないので、主述の関係や目的語、修飾語の位置などに細心の注意をしなければならないこと学んだ。また口頭発表でも、言葉の選び方で印象が変わったり、意味が伝わりにくくなったりしてしまうことも学んだ。</p> <p>学会最中では、さまざまな企業、研究者の方のお話を聞くことができ、特に印象深かったものは、デジタル技術によって、モノを売ることから、コトを売ることにビジネスが再定義されることが、企業が無視できないレベルにまでになっているということや、フィンテックの最新動向や多階層プラットフォームなど知っていたことは、さらに深く知ることができ、知らなかったことも多く知ることができた。</p> <p>発表では、若干早口になってしまい、発表が 1 分くらいはやくなってしまった。発表練習不足を感じ、もう少しゆっくり話すことを日頃から練習していきたい。周りの反応を見ることができたが、それをみて発表内容を変えることはできなかった。そこは今後の課題であると考えている。質問については、比較的予測していた範疇の質問であったので、戸惑うことはなかったと感じている。はやく発表がおわり、たくさん質問してもらえ、質問を答える練習になったことは、よい経験になった。</p> <p>私は、この学会参加を通じ、多くのことを学び、知り、経験することができた。機会の許す限り、多くの学会に参加していきたい。</p>